

気候変動下の土砂災害対策に関する  
これまでの取組と今後の課題をとりまとめます

～「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」（第 8 回）を開催～

- 気候変動に伴う降雨特性の変化により土砂災害がどのような影響を受けるのか、それに対しどのような対策を講じるべきかを検討するため、平成 30 年度から技術検討会を開催し議論を進めております。
- 今回の検討会では、令和 2 年 5 月の中間とりまとめ以降に議論した内容を踏まえ、気候変動下における土砂災害対策を取り巻く状況及び中間とりまとめで整理した課題の検討状況を整理し、現時点の成果と今後の課題をとりまとめます。

1. 日時 令和 5 年 12 月 25 日（月）10：00～12：00
2. 場所 東京都千代田区霞が関 2-1-3  
中央合同庁舎 3 号館水管理・国土保全局 6 階 B 会議室（WEB 会議併用）
3. 検討会設置の趣旨及び委員 **別紙 1**、**別紙 2**のとおり
4. 議事 ・気候変動下における土砂災害対策を取り巻く状況  
・中間とりまとめ（令和 2 年 5 月）の検討課題の対応状況  
・引き続き検討すべき課題と考慮すべき視点  
・気候変動を踏まえた砂防技術検討会 令和 5 年度版とりまとめ（案）
5. その他
  - ・本会議の傍聴は、WEB 上でのみとさせていただきます。なお、回線容量の都合上、各社 1 名に限定させていただきます。
  - ・WEB 傍聴を希望される方は 12 月 22 日（金）12:00 までに以下のとおりメールにてご連絡ください。期日までにご連絡頂いた方に WEB 会議の URL 及び会議資料を送付します。  
件名：【WEB 傍聴希望】気候変動を踏まえた砂防技術検討会（第 8 回）  
本文：氏名（ふりがな）、所属、連絡先  
送付先：iida-k423&&mlit.go.jp（&&を@に変えて送付してください）
  - ・これまでの検討会の経緯は**別紙 3**のとおりです。
  - ・会議資料及び議事録は、後日、国土交通省ウェブサイトに掲載予定です。  
[https://www.mlit.go.jp/river/sabo/committee\\_kikohendo.html](https://www.mlit.go.jp/river/sabo/committee_kikohendo.html)

## 問 い 合 わ せ 先

国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部 砂防計画課  
課長補佐 後藤 健（内線 36-136）、係長 飯田 健嗣（内線 36-135）  
TEL：03-5253-8111（代表） 03-5253-8466（直通）

# 「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」

## 開催趣旨

IPCC 第 5 次報告書においては、気候システムの温暖化には疑う余地がなく、21 世紀末までにほとんどの地域で極端な降水がより強く、より頻繁となる可能性が非常に高いことなどが予測されると報告されている。

このような中、平成 28 年北海道・東北地方を襲った一連の台風に伴う豪雨、平成 29 年九州北部豪雨、平成 30 年 7 月豪雨、令和元年台風第 19 号に伴う豪雨など、近年、激甚な土砂災害を伴う豪雨が頻発している。気象庁においては、平成 30 年 7 月豪雨は地球温暖化の影響があったとしている等、既に温暖化の影響が顕在化しつつある状況と認識される。

今後のさらなる降雨特性の変化に伴い激甚化が予想される土砂災害に対し、適切な対策を講じていくためには、これらの降雨特性の変化に伴う対策の検討・実施に必要な関係諸量（土砂量等）の変化を適切に評価する必要がある。しかしながら、気候変動による降雨特性の変化により、どのような土砂災害の原因となる土砂移動現象（以下、「土砂移動現象」と言う。）が顕在化するか十分な科学的・技術的裏付けがされているとはいえない。また、土砂移動現象は、地質や地形、気候条件などの影響を受け、地域ごとに異なる可能性も考えられる。

そこで、本検討会においては、気候変動による降雨特性の変化により将来発生・顕在化が懸念される地域毎の土砂移動現象及び対策の検討・実施に必要な関係諸量の調査・評価手法の高度化等を図ることによって、土砂災害対策分野における気候変動への適応策の実施に資することを目的とする。

「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」

委員名簿

内田 太郎	筑波大学 生命環境系 教授
執印 康裕	九州大学 農学研究院 教授
中北 英一	京都大学防災研究所 所長 教授
◎ 藤田 正治	京都大学 名誉教授
堀田 紀文	東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授
松四 雄騎	京都大学防災研究所 教授

◎：座長  
(敬称略、五十音順)

## 「気候変動を踏まえた砂防技術検討会」

## これまでの経緯

- 現地調査会（令和元年12月9日）
  - ・ 現地調査会・意見交換会
- 第1回（令和2年1月8日）
  - ・ 顕在化・増加の恐れがある土砂移動現象、今後の検討の方向性の整理
- 第2回（令和2年5月21日）
  - ・ 中間とりまとめの公表
  
  - 以降、中間とりまとめに基づく調査・研究を開始
- 第3回（令和3年3月5日）
  - ・ 土砂災害対策分野における研究・技術開発の進め方、行政施策への反映の方向性の整理
- 第4回（令和4年1月6日）
  - ・ 土砂・洪水氾濫により大きな被害のおそれのある流域の抽出方法について議論
- 第5回（令和4年4月22日）
  - ・ 土砂・洪水氾濫により大きな被害のおそれのある流域の調査要領について議論
  - ・ 過去の土砂災害における降雨量と生産土砂量の関係分析について議論
- 第6回（令和5年3月8日）
  - ・ 過去に発生した崩壊性地すべりの特徴等について議論
  - ・ 土砂・洪水氾濫時に流出する流木への対策に関する基本的な考え方について議論
- 第7回（令和5年8月10日）
  - ・ 崩壊性地すべりの事例集（案）及び啓発資料について議論
  - ・ 土砂・洪水氾濫時に流出する流木の対策計画の基本的な考え方（試行版）（案）について議論
  - ・ 気候変動に対応した砂防計画検討の方向性について議論
- 第8回（令和5年12月25日）【今回】
  - ・ 気候変動下における土砂災害対策を取り巻く状況
  - ・ 中間とりまとめ（令和2年5月）の検討課題の対応状況
  - ・ 引き続き検討すべき課題と考慮すべき視点
  - ・ 気候変動を踏まえた砂防技術検討会 令和5年度版とりまとめ（案）